

No. 1

令和8年度最初の国府津中図書館だよりです。家の人にもぜひ読んでもらおう。

ひよっこりほん!

国府津中学校図書館司書の比企（ひき）です。
昨年に引き続き、図書館を盛り上げていきたいと思っ
ています。どうぞよろしくお願いいたします。



令和8年4月28日
国府津中学校図書館
学校司書 比企しずか

本年度より貸し出しは ひとり2週間までOK!!



昨年度まで1週間の貸し出しでしたが、これでは短くて読み切れない…

という声が多数上がっていました。今年からはゆったりと読めますね。

☆延長を希望する時には必ず1度カウンターに来て、再貸出しの手続き
をしてください。次の予約の人がいなければ、もう一度借りられます。

図書室でのNGはこれ! 全員が気持ちよく過ごせるよう気をつけよう。

① 大声で話す



② 室内を走りまわる



③ 手続きをせず本を持ち出す



④ 床に座って読書



⑤ 寝転がりながら読書



⑥ ハンモックを持ち込んで読書



昨年度の人気本

図書館入口に展示しています。どんどん借りて読んでみてね。

「8番出口」(川村元気 著・水鈴社) 「近畿地方のある場所について」(背筋 著・KADOKAWA)

「成瀬は天下を取りにいく」シリーズ(宮島未奈著・新潮社)

「100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集」(福井県立図書館著・講談社)

「謎の香りはパン屋から」(土屋うさぎ 著・宝島社) 「かがみの孤城」(辻村深月 著・ポプラ社)



勝手にアカデミー賞

司書おすすめの、映像化された小説や関連本を紹介します。
今回は少し前の作品ですが、観てない or 読んでない人はGWにぜひどうぞ。

「君が最後に遺した歌」(一条岬 著・KADOKAWA)



詩作を密かな趣味としていた水嶋春人は、ある日クラスメイトの遠坂綾音に「一緒に歌を作ってほしい」と頼まれる。綾音は歌うことが大好きであるものの、発達性ディスレクシアのため、文字の読み書きができなかった。春人の書いた詞を綾音が歌にする、そんな2人だけの大切な時間とずっと続くと思っていたのだが…。

とても切ない青春ラブストーリー。お互いの淡い感情に思わずキュンキュンしてしまいますが、タイトルから結末が微妙に察知できるあたり、ちょっと惜しい気もします…。一条岬氏の作品、このほか「今夜、世界からこの恋が消えても」、「さよならの仕方を教えて」(共に KADOKAWA)など、5月に小説が入荷する予定です。

「木挽町(こびきちょう)のあだ討ち」(永井 紗耶子 著・新潮社)



ある雪の夜、木挽町の芝居小屋の裏で、菊之助という若者が群衆が見守る中で見事な仇討を行った。その2年後、事件の目撃者を訪ねる武士が木挽町に現れ、元幫間(もとほうかん←宴席で芸を披露する男性芸者)、立師、衣装部屋の女など、仇討に関わった人々に会い真相を探り始める。なんと、あの仇討には驚きの仕掛けが隠されていた。

時代ものの小説ではありますが、読後感すっきりで若い世代にも楽しく読めます。仇討の裏側に隠された謎解きと人情には感動、感動、また感動。こちら映画もずば抜けて面白く、今年(来年?)のアカデミー賞間違いなし!と信じたいところ。

「名探偵コナン ハイウェイの墮天使」(水稀しま 著・小学館)



横浜で開催されるバイクフェスに向かっていたコナンたちは、事故に巻き込まれてしまう。原因は猛スピードで駆け抜ける黒いオートバイ。「風の女神様」と呼ばれる神奈川県警の萩原千速が追い詰めるも、あと一步のところを取り逃してしまふ。バイクフェスでは新型の白バイエンジェルがお披露目されていた。そんな中、エンジェルに似たルシファーが都内を暴走。ルシファーに乗っているのは一体何者なのか。

今年は横浜や箱根が大変なことになるようですが、小田原は影響なしでしょうか。小田原駅改札前には市とのコラボとしてコナンくんの床ラッピングが出現しましたが、いそいそと通勤する人たちに踏まれ、もはや踏み絵状態。悲しいです…。